

10:1 そのとき、主は私に仰せられた。「前のような石の板を二枚切って作り、山のわたしのところに登れ。また木の箱をつくれ。
10:2 その板の上に、わたしは、あなたが砕いた、あの最初の板にあったことばを書きしるそう。あなたはそれを箱の中に納めよ。」
10:3 そこで私はアカシヤ材の箱をつくり、前のような石の板を二枚切り取り、その二枚の板を手にして山に登って行った。
10:4 主は、その板に、あの集まりの日に山で火の中からあなたがたに告げた十のことばを、前と同じ文で書きしるされた。主はそれを私に授けた。
10:5 私は向き直って、山を下り、その板を私が作った箱の中に納めたので、それはそこにある。主が命じられたとおりでである。
10:6 ・・イスラエル人は、ベエロテ・ベネ・ヤアカンからモセラに旅立った。アロンはそこで死に、そこに葬られた。それで彼の子エルアザルが彼に代わって祭司の職に任じられた。
10:7 そこから彼らは旅立ってグデゴダに行き、またグデゴダから水の流れる地ヨテパタに進んだ。
10:8 そのとき、主はレビ部族をえり分けて、主の契約の箱を運び、主の前に立って仕え、また御名によって祝福するようにされた。今日までそうなっている。
10:9 それゆえ、レビには兄弟たちといっしょの相続地の割り当てはなかった。あなたの神、主が彼について言われたように、主が彼の相続地である。・・
10:10 私は最初のときのように、四十日四

十夜、山にとどまった。主はそのときも、私の願いを聞き入れ、主はあなたを滅ぼすことを思いとどまられた。

10:11 そして主は私に、「民の先頭に立って進め。そうすれば、わたしが彼らに与えると彼らの先祖たちに誓った地に彼らはいり、その地を占領することができよう。」と言われた。

こともあろうに民は、律法を授かるべきその時に、最も忌むべき罪である偶像礼拝をしてしまいました。話にならないという状況で、律法を守る守らない以前の問題です。まったく律法の契約など成り立たないわけですが、新約の真理から言うとそれはまさに人類の罪そのものを表しています。私たちはそれほどに罪に蝕まれている存在なのだという事です。

しかしモーセは神にとりなして、もう一度チャンスをもらいました。すなわちもう一度石の板を用意して、「前と同じ分度書き」しるしていただいたのです。

この律法の契約の板を運ぶことは、何よりも重要なことなので、仕事の片手間にはできないことです。神様は一つの民を選んでそのための働きを担わせました。彼らが生活に煩わされないように、相続地がなくても、彼らの生活を保証しました。それほど信仰のための働きは重要で尊いのだと知りましょう。

新約時代の今は、万人祭司ですから、私たちはみなが主のために生きるなら保証されるのだと信じましょう。レビ部族のように主の働きを担いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

